

「臨床決断のエッセンス

不確実な臨床現場で最善の選択をするために」

今井 裕一 訳
秋田大学医学部 EBM 研究会 協力

山梨医科大学第3内科教授

小 林 哲 郎

evidence-based medicine (EBM) という言葉が臨床の場で頻回に使用されるようになってから、われわれ臨床家は診断や治療の根拠と出現する確率を意識しないわけにはいかなかった。本書は臨床の現場における決断(臨床決断)をどのような根拠に基づいて行うかをわかりやすい実例を持って示してある極めて基本的、かつ明解な解説書である。

医療の現場で用いられる決断のプロセスをデシジョン・ツリーとして表現し、それぞれの起こりやすさ(likelihood)とはどのようなものであるかを多面的に表現している。残念なことに、日常診療の場において

はこのような考え方を100%臨床決断に活かすことはできないかもしれない。これはいまだバックアップを行う医学的なデータが欠如しているという現状があるからである。しかし、多くの臨床的な文献を読み解く際に、本書の考え方は文献の記載が縦糸だとすれば、横糸であり、本書で紹介されている手法を思考に導入することにより、より柔軟かつ強靱な臨床活動ができるものと期待される。

本書を読み終えた後には、EBMという無媒介的な言葉をより身近な媒介とするためのヒントが得られたという爽快感を味わうことができる

であろう。また随所に訳者今井裕一博士の“ガイドラインすなわちEBM”という風潮への醒めた目を感じる。さらに巻末には臨床決断の際に有用な likelihood ratio, odds など基本的な用語の説明、さらにそれを利用したポケットガイドやコンピュータプログラムに関する解説も付けられており、臨床現場での極めて有用な情報源となりうるものと確信する。

● A5 頁152 図15 表5 2002
定価(本体2,200円+税)

医学書院 刊(☎03-3817-5657)